



# 大樹のこころ

## あじさい読書週間

人間は物事を考える時、どのように思考しているのでしょうか。それは言語によってです。自分の頭で何かを考える時は、日本語の言葉と言葉をつなぎ合わせていきます。この「つなぎ合わせ方」が多岐にわたるほど「深い思考」につながっていきます。では、言葉のつなぎ合わせ方はどのように学べばいいのでしょうか。その一つの方法が読書であると考えます。多くの書物を通して、言葉のつなぎを知り、それを活用して思考の幅を広げていくのです。

6月に入り、学校では「あじさい読書週間」となりました。梅雨の時期に入り、放課時に外で遊ぶ機会が少なくなる6月に、読書週間を設けて本に親しむことをねらいとしています。図書委員会から「あじさい読書カード」が配付され、子供たちは読書量に合わせてカードのイラストに色を塗っていきます。目標を達成できた子には手作りの「しおり」のプレゼントがあります。

この週間には担任の先生による読み聞かせも行われます。本校では、読み聞かせボランティア樹げ夢の皆さんによる読み聞かせが、日常的に行われていますが、担任の読み聞かせは、子供たちにとって新鮮なものとなります。さらに図書委員の子供たちが、昼放課に「ちびっこ図書室」で低学年の子を対象とした読み聞かせも行っています。このように大樹寺小が読書一色となっていきます。本に触れあう機会が多くなるにつれ、子供たちは言葉のつなぎ方を無意識に習得していきます。

読書の効用は言語の幅を広げるだけではありません。人の心も育んでいきます。道徳心を芽生えさせるのは説教や説法だけではありません。自分は「物語」に感動することで、道徳心が生まれていくと考えています。本の世界では、様々なストーリーが繰り広げられます。物語にハラハラドキドキしたり、共感したり感動したりする中で、子供たちは「思いやり」「勇気」「家族愛」「努力」といったことの大切さや価値に気付いていきます。物語を楽しみながら、道徳心を養っていく。読書は情操教育の一面もあると思っています。



## プロジェクト150

創立150周年に向けて「プロジェクト150」が発足されました。各学年で「子供たちが自分たちでお祝いできること」をやっいてこうというものです。6年生は式典当日に掲示するための「大樹寺の絵」を作成しています。とても緻密な作品が完成されつつあります。他の学年がどんな活動をするのか楽しみです。

読書が一過性のものとなっては残念です。子供たちの日常生活の中で、自分のそばにはいつも本があるという環境になればと思っています。ご家庭でも、あじさい読書週間と絡めて、保護者による読み聞かせや子供への推薦図書のプレゼントなど行ってみてはどうでしょうか。